

【特徴】

当センター整形外科には、専門医取得に必要な脊椎外科、関節外科、手外科、骨軟部腫瘍外科、小児整形外科、外傷外科の各専門医が在籍し、高度で専門的な医療の提供を行うとともに、各分野の専門医の育成を行っている。また、救命救急センターと連携し、緊急搬送された重度の外傷患者の治療にも関与し、予定手術患者だけでなく、緊急手術が必要な患者の治療にも携わっており、整形外科医としての幅広い知識と技術の習得を目標とした研修を行っている。

【研修目標】

1. 一般目標

整形外科専門医資格を取得するために必要な、脊椎外科、関節外科、手外科、骨軟部腫瘍外科、小児整形外科、外傷外科の全ての分野の疾患・外傷について適切に診断し、各々の病態に応じた治療計画が行える事を目指す。

2. 行動目標

- (1) 典型的な運動器疾患について、その病態、診断方法、標準的な治療方法について説明することができる。
- (2) 関節可動域検査が正しく行える。
- (3) 徒手筋力テストが正しく行える。
- (4) 神経学的所見を適切にとることができる。
- (5) X線所見の評価を的確に行える。
- (6) 運動器疾患におけるMRI所見が正しく読影できる。
- (7) 関節造影、脊髄造影などの造影検査が正しく行える。
- (8) 関節穿刺手技が正しく行える。
- (9) 腱鞘内注射、関節腔内注射、神経根ブロック等の処置が正しく行える。
- (10) 整形外科で必要な局所麻酔の作用について理解し、実践できる。
- (11) 脱臼・骨折・捻挫・打撲の応急処置ができる。
- (12) シーネ固定や、ギプス包帯を巻いたり除去したりすることができる。
- (13) 患者本人や家族に対しての病状説明や、インフォームドコンセントが適切に行える。
- (14) 診療録を適切に遅滞なく記載することができる。
- (15) 各種診断書・証明書を記載することができる。

【方略】

- (1) 基本的には4臨床群（①脊椎外科、②関節外科・小児整形外科、③手外科・骨軟部腫瘍外科、④外傷外科）に分けた専門クリニックをローテーションする。
外傷外科の研修は救命救急部と連携する。
- (2) ローテーション期間中はその専門クリニックの指導医の下で、指導医が主治医となる患者の病棟担当医となり研修を行う。
- (3) 術前カンファレンス、術後回診、部長回診、リハビリカンファレンスの際に、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- (4) 初診外来と再診外来を週に一度ずつ担当する。
- (5) 整形外科抄読会で、最新の論文の抄読を行い発表する。
- (6) 年間2回以上の研究会または学会での発表と1編以上の論文投稿を行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

〔レジデント〕

- ・ 1年目（卒後3年目）
4臨床群（①脊椎外科、②関節外科・小児整形外科、③手外科・骨軟部腫瘍外科、④外傷外科）を原則3ヵ月ずつローテート。
 - ・ 2年目（卒後4年目）
4臨床群（①脊椎外科、②関節外科・小児整形外科、③手外科・骨軟部腫瘍外科、④外傷外科）を3～6ヵ月ずつローテート。
 - ・ 3年目（卒後5年目）
4臨床群（①脊椎外科、②関節外科・小児整形外科、③手外科・骨軟部腫瘍外科、④外傷外科）を3～6ヵ月ずつローテート。
- ※ 整形外科専門医資格取得のための研修を行う。希望に応じてローテーション期間の延長を行う。
（例：1年目に外傷外科ローテーション6ヵ月希望など）

〔シニアレジデント〕

- ・ 1～3年目
5つの臨床分野（脊椎外科、関節外科、小児整形外科、手外科、骨軟部腫瘍外科）の内、希望する2つの臨床分野を6ヵ月ずつローテート、あるいは1つの分野を年間を通して専門的な研修を行う。
- ※ 日整会認定リウマチ医、日整会認定スポーツ医、日整会認定脊椎脊髄病医、日本手外科学会認定手外科専門医等の資格取得のための研修を行う。

【見学等問い合わせ先】

整形外科部長 日高 典昭